

あかいか漁場調査

(抄録)

黄金崎栄一・今村豊

試験船調査

2000年6月から9月にかけて試験船開運丸(208トン 19名乗組)によりあかいか漁場調査を実施した。

調査は釣りによる漁場探査とCTD及びXBTによる海洋観測を実施した。

得られた結果は無線及びFAXにより開運丸から直接または八戸漁業用海岸局経由で操業船へ情報を提供した。

一次航海は、6月下旬から7月下旬に北緯38度から北緯42度、西経173度から東経168度の範囲で、一晚2回操業を含む延べ24回の操業と、水深400mまでの海洋観測を82回実施した。

二次航海は、9月上旬から下旬に北緯40度から北緯45度、東経163度以西の海域で、一晚2回操業を含む延べ21回の操業と、水深400mまでの海洋観測を71回実施した。

あかいか漁獲量

2000年漁期(5月～翌年3月)に八戸港に水揚げされたあかいかは、約18,944トンで前年漁期(約17,448トン)と比較すると同程度の水揚げ量であったものの、1998年漁期(48,244トン)の39%にとどまった。

あかいかの漁獲状況を沖合域と沿岸域に分ける方法として、5月から8月は前期沖合域に(東経170度以東海域で漁獲されたあかいかの大部分は9月までに水揚げされる。)9月以降を後期沿岸域(170度以西で漁獲されたあかいかで大部分が道東・三陸沖で漁獲される。)と区分することができ、2000年前期(沖合)の漁獲量は約4,720トンで1999年同期(約8,038トン)及び1998年同期(約10,324トン)より少ない漁獲量となっている。

また、後期(沿岸)の漁獲量は約14,224トンで1999年同期(9,410トン)1998年同期(37,920トン)と比較すると、1999年には及ばないものの、1998年を上回る漁獲状況となっていた。

上記の結果から、2000年の資源状況を推察すると、沖合のあかいかの資源状態は1998年は良好な状況にあったが、1999年及び2000年と連続して漁獲量が低下していることから、資源量の低下または環境の変化に伴う漁場位置の変化があったのではないかと推察される。また、各年の沿岸域の漁獲変動も大きいですが、この要因として資源量の変動よりは、海洋環境の変化の影響が大きかったと推察された。

発表誌

平成12年度イカ釣漁場開発調査資料26号、平成13年5月、青森県水産試験場。

平成12年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流海洋観測結果基礎資料集、平成13年5月、青森県水産試験場。